厚岸町の湿原周辺における ケアリ属の好蟻性ハチ類相の解明

～厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励金の研究事例を紹介します～

●問い合わせ／水鳥観察館☎52－5988

厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金制度とは？

厚岸町では厚岸湖、別寒辺牛湿原、ほか町内の自然環境を次世代へ引き継いでいくため、専門分野の学生や研究者に支援をしています。
このページでは、制度を活用した研究の一部をご紹介します。

好蟻性昆虫とは

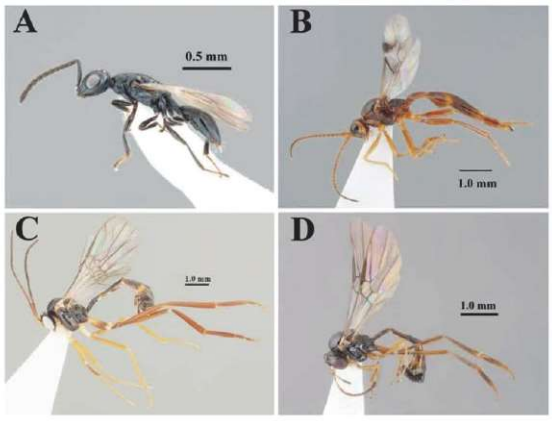
生活の一部または全てをアリに頼って暮らす昆虫のことを好蟻性昆虫（こうぎせいこんちゅう）といいます。アリは社会性を持つ昆虫で、巣に近づく外敵を攻撃する性質を持ちます。しかし、好蟻性昆虫はあらゆる手段でアリの攻撃をかわし、アリの巣やその周辺で生活しています。そこでは、餌が豊富にあり、アリの性質を利用して外敵から身を守ることもできます。

研究の背景と目的

好蟻性ハチ類には、アリに寄生する種やアリ以外の昆虫に寄生しながらアリの巣で生活する種などがいて、その生活の仕方はとても多様です。しかし、これまでに日本で知られている好蟻性ハチ類は約30種にとどまっており、その種多様性は十分に解明されていません。北海道には、多くの好蟻性昆虫と関係を持つケアリ類やクシケアリ類が多く生息しています。特にケアリの巣では、１つの巣から20種以上の好蟻性昆虫が見つかることもあり、北海道は好蟻性昆虫の多様性を解明する上で重要な地域だと考えられます。厚岸町にある別寒辺牛湿原の周辺は、自然が多く残された場所であり、まだ知られていない好蟻性ハチ類が生息している可能性があります。そこで私たちは、厚岸町の湿原周辺のケアリ属の巣を対象に好蟻性ハチ類を調べ、種多様性を明らかにすることを目的としました。

調査方法

調査は2025年８月から10月の３回、水鳥観察館付近、別寒辺牛付近、愛冠岬の３カ所で行いました。調査には、見つけ取り法とイエローパントラップ、マレーゼトラップという方法を用いました。イエローパントラップは、黄色の容器に水を張って設置することで、色に引き寄せられた昆虫類を採集するトラップです。マレーゼトラップは、飛翔する昆虫が障害物に当たると上へ登ろうとする性質を利用したテント型のトラップです。採集した好蟻性ハチ類は大学に持ち帰り、学名を調べました。



▲調査で見つかった好蟻性ハチ類
A：コガネバチ科の一種（日本初記録）
B：オオアリマキヤドリバチ（北海道初記録）
C：クロクサアリヤドリバチ
D：アリヤドリバチ亜科の一種（未記載種）

研究結果および考察

今回の調査では、未記載種（まだ正式な学名がついていない種）も含めて４種の好蟻性ハチ類を採集しました。このうち、北海道でこれまでに記録があった種は１種のみでした。残りの３種は、日本未記録種１種、北海道未記録種１種、未記載種１種でした。今回調査を行わなかった場所や６月、７月も調査を行うことで、さらに多くの種が発見できる可能性があります。

九州大学の梶原冴月氏らによる『厚岸町の湿原周辺におけるケアリ属の好蟻性ハチ類相の解明』より。報告書などの本文は、水鳥観察館のホームページで見ることができます。

水鳥観察館のホームページはこちら

●文・写真／九州大学昆虫学研究室　梶原冴月・河合諒人・松浦公平　●編集／厚岸水鳥観察館